

明・文十郎易英及び永福の妻は共に城内を巡つて士卒を勵ました。この來襲の報は十日金澤に達したが、利家は申刻を以て出馬し、津幡城に至つて子利長(當時利勝)の松任より來るを待ち、十一日黎明羽昨郡今濱に入つたが、敵の川尻を守る者の知る所とならなかつた。利家乃ち更に進んで、村井長頼・不破直光等をして成政の先鋒を破らしめ、自ら利長と共に城後に出たが、城中の兵之を見て門外に突出したので、共に力を戮せて斬獲七百五十級に及び、遂に城に入ることを得た。この時永福は僅かに本丸の一區を保つのみであつた。坪井山の本營に在つた成政は自ら手兵を率ゐて雌雄を決せんとしたが、利家は直に隊形を整へて應戦の勢を示したから、遂に軍を班し、途鳥越を過ぎて馬を納れた。鳥越には利家から丹羽源十郎・目賀田又右衛門を置いてあつたが、二人は利家が末森に取れたとの訛傳を信じて脱走した爲に、城容易に成政の軍の占領する所となつた。而して利家は十二日津幡を経て金澤に歸つた。

(三)戦後の措置—利家は十一日既に第一報を秀吉に致したが、十三日に至つて捷を告げ、秀吉は十六日附を以て之を賞した。末森守城の功を全くした奥村永福・千秋範昌等は、十六日利家から感状を受け、祿各千俵を加賜せられ、また十七日には利長からも感状を授けられた。

スエモリヤマ 末森山 羽昨郡下吉田部落から東に當る山。山嘴に末森城址がある。高さ一四〇米。地質第三紀層。堀妻水の三州奇談に末森の白菅の一節を掲げて、そのうちに『此所にある木魂餅を搗くが如し。試みに谷

に入りて聲を發するに、兩方の嶺にこたへて、餅臼の拍子の如し。』と記するが、果しかくの如くなるや否やを知らぬ。

スエヨシ 末吉 羽昨郡堀松庄に屬する部落。能登名跡志に『此村の橋爪に自然石の地藏あり。此村の源助といふ者は、昔義經の宿參らせて給はりしとて、太刀の小柄を取傳へ有。いかにも古き物の由。今失せにきといふ。』とある。

スエヨシジヨウ 末吉城 羽昨郡末吉に在つて、高さ六〇米許の小丘である。越登賀三州志故墟考に之を篠山ともいふ如く記してゐるのは、城山の過聞であらう。能登名跡志に、『手簡何某の城跡あり。今城主の筋目ありて、盆中は灯籠の手向金澤御家中より有由。』とある。

スエヨシヒヨシジンジャ 末吉日吉神社 羽昨郡末吉に鎮座する。式内等舊社記に、『末吉日吉神社。堀松庄内末吉村鎮座。舊社也。』と見えるもので、この社を式内の百沼比古神社に擬するは誤である。

スンキンザツシ 寸錦雜誌 一冊。史談を多く集めたもの。前田家の目録には青地撰とあるが、本書にはその事が見えぬ。

スンキンザツペン 寸錦雜編 一冊。著者不明。織田氏から徳川初期にかけての文書を集めたもので、前田利家・利長・利常・光高に關したものが多い。

スンキンザツロク 寸錦雜錄 二冊。著者不明。室町時代の末、天文・弘治・永祿から、元龜・天正の書簡を集めたもので加賀・能登に關するものが可なり多く、花押は忠實に寫されて居る。

セ

セアラシ 瀬嵐 シラ 鹿島郡熊木院に屬する部落。

セイイクベン 生育辨 一冊。關重秀著。人間生育の事、妊婦養生の事、婦人心得の事等を載せる。

セイウンジ 誓運寺 鳳至郡穴水大町に在つて、眞宗東派に屬する。

セイエ 清惠 河北郡俱利伽羅眞宗東派光現寺十三代。慧日院淨惠の嫡で、洗靈と號した。寛政五年圓乘院講師の門に入り、文政三年寮司に任ぜられ、天保十二年隱居して乘泰院の號を許され、十三年七月廿三日寂、享年六十五。

セイエンジ 誓園寺 能美郡小松西町に在つて、龍漢山と號し、淨土宗に屬する。正保二年歡譽の創立。

セイカイジ 誓海寺 河北郡内日角にあつて、眞宗東派に屬する。

セイガクシキ 正學旨歸 一冊。林瑜著。此の書は儒道に於いて一元氣機の運轉周流に關する議論が區々であるのを、朱子の説を旨として論辨したものである。巻尾に『乙未冬月某日早起録』とある。

セイガクジザイ 聖學自在 三冊。安永五年新井白蟻著。學問本意・學問正法などの題をおいて、儒道を論辨したものである。

セイガクボウ 清學坊 金澤塩屋町に在る。山號は志尾山。初め當山派の山伏であつたが、明治五年修験を禁ぜられたから眞言宗に

歸した。

セイガンジ 誓願寺 金澤上小川町に在つて、來迎山と號し、淨土宗に屬する。寛永十三年壽光之を六枚町に建立し、寛文十年二代清玄の時今の地に移轉した。

セイガンジ 誓願寺 能美郡向本折に在つて、曹洞宗に屬する。安永二年天徳院の大人秀有が隱退の後同郡小松に建てたもので、安政二年今の地に轉じた。

セイガンジマヘ 誓願寺前 金澤の舊町名。文政四年二月郡地の一部を町奉行裁許とした時、卯辰村領新町を、川より南は卯辰西養寺前、川より北は卯辰誓願寺前とする。明治四年四月戸籍編成の時上小川町に屬せしめた。

セイカンノエキ 征韓の役 ↓セイミンノエキ 征明の役。

セイキユモンドウ 濟急問答 本書三冊、餘談三冊。上田耕著。天保七年の凶作の狀と、之に對する救急の手段、藩政の改善、經濟の調節等に關し、龍野子の間に烏有老人が答へた體に記したものである。

セイゲツイン 清月院 加賀藩主第六代前田吉徳の側室鈴木氏の法號。詳しくは清月院智光妙圓大姉。

セイケンイコウ 青軒遺稿 一冊。安井顯比の詩文集で、その歿後大正十五年門人岡田良顯が編集刊行したもの。漢文二十篇、邦文意見書二篇、詩賦四十五首を収めてゐる。

セイゲンジ 誓玄寺 河北郡狩鹿野に在つて、眞宗東派に屬する。

セイゲンジ 誓源寺 鳳至郡雨に在つて、眞宗東派に屬する。